

中国の民間企業による農業融資

——希望金融の取組み事例——

主事研究員 王 雷軒

中国農村部での金融包摂、特に融資面での金融排除を解消するべく、当局は様々な政策や対策を行ってきたが、農村部での金融排除問題は根深く、その解消は政府にとって重要な課題であり続けている。

こうしたなか、民間企業は2015年前後から農業融資に積極的に取り組んできた。例えば、Eコマース大手アリババグループ系の金融関連会社であるアントグループ(蚂蚁集団)や京東グループ傘下の京東数字科技(JD Digits)が農業融資に参入している。また、大手飼料メーカーの新希望集団、北京大北農科技集団などの農業関連企業も農業融資に取り組んでいる。

今回は、新希望集団傘下の新希望慧農(天津)科技有限公司(以下「希望金融」)の事例を取り上げる。

1 新希望集団と希望金融の設立

新希望集団は、1982年創業の農業関連企業で、飼料、畜産を主体とした農牧業、健康医療や不動産開発などの多岐にわたる事業を国内外で展開している。同社のホームページを確認すると、傘下には600社超の企業があり、10万人の従業員を有している。2020年6月末時点の決算書によれば、総資産が1,526億元(約2.4兆円)、20年度上半期の純利益は45億元(約700億円)であった。

同社は農牧業の大手民間企業としてよく知られているが、実は金融業においても近年存在感が増しつつある。1996年に民間企業によ

って設立された中国初の全国性商業銀行^(注)である中国民生銀行の発起人・出資者であったほか、2003年に中国民生人寿保険の設立と出資、15年に華創証券への投資、16年に全国で7番目かつ四川省初の民営銀行となる四川新网銀行の設立や出資などに携わってきた。

このように、農牧業や金融業で積み重ねた数十年の実績をもとに、同社は15年2月に希望金融を設立した。

2 希望金融の業務内容と融資実績

希望金融の業務の中心は、農家や中小企業に対する農業関連資金、生活資金の貸出である。具体的な借り手は、養鶏や養豚を行う畜産農家、施設農業などの経営を行う耕種農家のほか、スモールビジネスを行う個人事業主、中小企業の経営者などである。

借り手のなかには、金融機関からの資金調達が困難な者、銀行融資は受けられるものの、融資額が必要金額に達せず、不足分の資金調達先を必要とする者もあり、希望金融の業務は、銀行が対応しなかった借り手を包摂するものとなっている。

同社設立後、創業者である陳興垚社長が精力的にメディアや研究機関を通じた情報発信を行ってきたほか、新希望集団本体の知名度や影響力の高まりもあって、創業から22か月後にあたる16年末には貸出累計額が35億元にのぼっている。その後も業務の拡大が続き、創業から20年6月末までの貸出累計額、貸出累

第1表 希望金融の貸出・利用者状況

(単位 億円、万件、万人)

	16年末	17年末	18年末	19年末	20年6月末
年間新規貸出額	25.4	36.0	26.2	19.1	3.7
年間新規貸出件数	1.0	3.1	3.6	2.6	0.5
貸出累計額	35.0	69.4	95.5	114.6	118.3
貸出累計件数	1.1	4.9	7.7	10.2	10.7
登録利用者数	40.5	90.6	125.9	130.8	135.0

資料 同社の各年度・月次運営報告により筆者作成

計件数はそれぞれ118.3億円、10.7万件となっている(第1表)。登録利用者数も135万人にのぼり、山東省、四川省、河南省、広東省などに数多くの支店やサービスセンターをもち、既に金融業界ではよく知られた存在となっている。

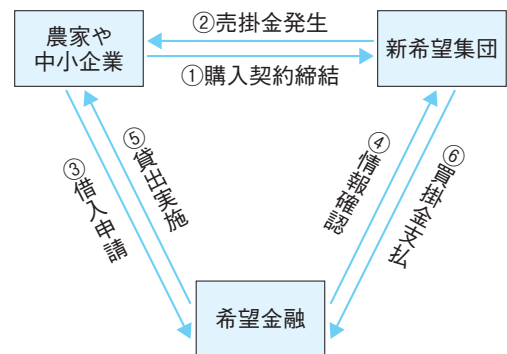
3 融資の特徴

希望金融が行う融資の特徴は、借り手が保有する売掛債権を担保とした融資を行うという点にある。具体的には、同社は、新希望集団と取引のある農家や中小企業の資金の流れを把握しながら貸出業務を行っているが、その仕組みは第1図のとおりである。

聞き取り調査によると、新希望集団は、借り手である農家や中小企業から農産物などの生産物を購入する(①)。借り手に発生した売掛金(②)は、決済に約20日かかるが、この間に資金需要が発生すれば、借り手は借入申請を行う(③)。申請はオンラインで行われ、案件審査から取引実行までにかかる時間は2週間程度であり、銀行融資と比べ速やかに借り入れることが可能である(⑤)。

この速さは、季節性がある農業生産を適切に行う必要性を考えると、借り手にとっての利便

第1図 希望金融融資の仕組み



資料 聞き取り調査により筆者作成

性は高く、銀行が対応しきれていない借り手の金融包摂に貢献している。速さの背景には、オンラインでの新希望集団との情報確認(④)に加えて、支店やサービスセンターが経常的に行っている借り手の信用力に関する情報収集や現況確認などのオフラインでの取組みがある。

また、借り手にとっては、資金需要への迅速な対応により時間が節約されるだけでなく、借り手の資金調達コストも大幅に削減できるという。それは、売掛債権の決済確度が高いからである。このように、時間も調達コストも削減されるならば、借り手はこの仕組みを反復利用するであろう。

このような融資を通じて、希望金融は金融排除された農家や中小企業から多くの肯定的評価が得られており、農村における金融包摂の推進の一翼を担っている。今後も同社の取組みに注目したい。

<参考文献>

- ・杜晓山ほか・刘晓红編(2018)『从小额信贷到普惠金融』中国社会科学出版社、421～433頁
- ・冯兴元ほか(2019)『農村普惠金融研究』中国社会科学出版社、146～153頁
- ・希望金融の年度運営報告と月次運営報告(2020年10月14日最終アクセス)
<https://www.xwjr.com/about/operationYear>
<https://www.xwjr.com/about/operationMonth>

(注)国家の管理下において全国的な規模で支店を設置できる商業銀行。

(オウ ライケン)